

産経新聞

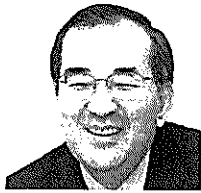
もともとレッドラインという言葉は、アイスホッケーのオフサイドの線として知られていた。転じて最近では、国際紛争において関係者が越えてはならない最後の二線を指す用語として

しかるに、オバマ氏は化学兵器の使用を目の当たりにしても動かなかった。その結果、ロシアはクリミア半島併合や東ウクライナ干渉に踏み切り、シリアでも全面的な軍事介入に出たこ

11人を含む58人の市民が死亡したと伝えた。トランプ氏が4月7日にシャイラート空軍基地を攻撃したのは、口先介入に終始したオバマ氏を選挙遊説中から批判していただけに、レッドラインの厳格な解釈にこだわった

歴史の交差点

フジテレビ特任顧問 山内昌之



て使われるようになった。オバマ前米大統領は、アサド政権が化学兵器を市民に使うならレッドラインを越えたと見なし、シリアに軍事干渉すると公言したものである。

とは記憶に新しい。他方トランプ大統領は、シリア政府軍がイドリブ県で化学兵器を使い、レッドラインを越えたと考えた。シリア人権監視団(SOH)も使用疑惑を公にし、子供

日本のレッドラインは？

のだらう。しかし、興味深いのは、ロシアとイランとシリア派民兵勢力などは、米軍こそレッドラインを越えたと声明したことがある。レッドラインは、その二つの狙いがあった。それは北朝鮮である。習近平

国家主席を招いた席でミサイル攻撃についてささやき、中国が北朝鮮問題で主体的な解決努力を講じなければ、米国単独の行動も辞さないことを実例で示したのである。トランプ氏は、予想された以上に巧妙な外交駆け引きを、中露相手に繰り広げたことになる。

金委員長にとって厄介なのは、トランプ氏が軍事行動に踏み切る基準となるレッドラインの内容を明らかにしていないことだ。むしろ大統領は、意識的にレッドラインを明言しない方針のようである。

大統領が公言したのは、シリアの政府空軍基地をミサイル攻撃した例を参照しながら、「適切な時には断固たる行動をとる」と強調したことだ。政府と与野党は、ソウルはじめ韓国在留の日本市民と本土国民の安全を図るためのレッドラインと戦略的対応について、虚心に合意すべき時が来たといえよう。

(やまうち まさゆき)